

卓 話

平成 26 年 9 月 30 日

『ギターのはなし』

三宅裕樹会員

■エレクトリックギター創世記

ギターは歴史も古く人気のある楽器ですが、唯一の欠点は「音量が小さい」ことです。その為、ビッグバンド等では音量の大きな管楽器（トランペット等）のように中心的な楽器には成り得ず、脇役に甘んじておりました。1920年頃からギターの音をマイクで増幅しようという様々な試みが行われ1930年後半頃にはギターに取り付ける「ピックアップ」の基本形が出来てきました。その後、1940年代後半には、ほぼ現在のエレキギターの原型が出来始め1959年～1960年には、完全な楽器として完成しました。現在でも殆ど進歩していないのが面白いところです。

■フェンダーとギブソン

フェンダー社は創業者レオ・フェンダーが1945年にアリゾナ州スコッツデールで設立。1948年に「エクスワイヤー」を発表。その後、現在の「テレキャスター」に発展。創業者レオ・フェンダーは稀代の天才で、現在のエレキギターの基本は全てこの人が考えたと言っても過言ではありません。1954年に発表された「ストラトキャスター」は現在でも多くの愛好者があります。特に1959～1965年の間に作られた製品は評価が高く現在でも高値で売買されています。しかし1980年以降品質が低下し業績が悪化したが現在では再興され「カスタムショップ」を中心に高品質・高価格路線で復活を果たしました。

ギブソン社の歴史は古く、1902年にテネシー州ナッシュビルで創業。ギターメーカーとしての評価は世界最高クラス。古くからアコースティックギターの製造をしていたが、エレキギターも1950年代頃より生産を開始。1952年に発表された「レスポールモデル」（レスポールはギタリストの名前）をはじめ数多くの名器を生産。フェンダー社との違いは、高い木工技術を生かした高価格製品が多く、幅広いジャンルに対応している。ギブソン社も1957年～1969年頃の製品は品質が良く現在でも高価。しかし、ギブソンもフェンダー同様に1980年代に品質低下による暗黒時代を経て、現在では「カスタムショップ」を中心とした高価格高品質路線で優秀な製品を送り出しています。

ギターは、少量生産するだけなら町工場程度の設備があれば簡単に出来ます。その為世界中には数多くのギターメーカーがありますが、このフェンダーとギブソンの「ロゴ」が入ったギターは（愛好者にとって）絶大な信頼感があります。

良いギターとは、弾きやすく音の良いものである事は言うまでもありません。良いギターを作るには、良い材料（木材）と高度な木工技術が必要です。多くの名器が1950年～60年代に作られているのは、その時代は良い木材が潤沢にあった事が理由です。楽器に使われる木材は希少性の高いものが多く、現在では資源量の減少から「ワシントン条約」の対象になっているものも少なくありません。木材は伐採してから十分な乾燥熟成期間が必要です。また、1本の丸太でも良い部分は僅かしかありません。良材で作られたギターが高価になるのは致し方ありません。

■本日持参したギターの紹介

フェンダーテレキャスター 1975年型

学生時代（昭和52年1977年）に購入。（当時約25万円）

ギブソンES-345 1967年型

1995年頃購入（当時約50万円）ギブソンの品質が良かった時代の製品

ギブソンレスポールスタンダード 2013年型

昨年購入。ギブソンカスタムショップ製 1959年型の復刻モデル レスポールは人気が高くオリジナルの1959年製は生産本数が少なく売買価格1,000万円以上。しかし、最近は品質の良い復刻モデルが出てきました。

